



「映画撮影の町 加古川」

映画撮影と聞いて、加古川とは縁がないと思われる方が多いのではないのでしょうか？実は、加古川はここ10年間に数多くの有名な映画等撮影が行われています。

その多くは、近代化遺産である日本毛織の社宅群で行われています。どんな映画が撮影されているかご紹介しましょう。

まずは、2006年下半期に放映されたNHK朝の連続ドラマ「芋たこなんきん」（75作目、H18～19、藤山直美）の学徒動員の場面が撮影されています。2007年に撮影されたのは、映画「火垂るの墓」です。野坂昭如



原作の作品で、兵庫県神戸市と西宮市近郊を舞台に、親を亡くした幼い兄妹が終戦前後の混乱の中を必死で生き抜こうとするが、その思いも叶わず悲劇的な死を迎えていく姿を描いた小説です。

次に、妹尾河童の自伝的小説が映画化された映画「少年H」は、2012年に撮影されました。神戸の海浜の町を舞台に戦争を子どもの視点で描いた感動の作品です。同年、作家で僧侶の瀬戸内寂聴さんの代表作である映画「夏の終り」も撮影されました。

その多くは、日本毛織の社宅群で撮影されています。その場に行くと、昭和時代にタイムスリップしたような感覚になります。写真にあります建物は、1911（明治44）年に建築された、いわゆる「異人館」としては加古川市内において現存する唯一の文化財です。日本毛織は一時期従業員数4000人近くを有し、加古川は「ニッケ城下町」と称され、「ニッケ勤め」ということばが交わされるほどの影響力をもっていました。



来年秋には、日本毛織加古川工場跡地に、加古川市民病院新統合病院加古川メディカルセンター（仮称）が開院され、加古川駅周辺も大きく変貌することになるでしょう。

ぶらり加古川第6号

平成27年7月